

資料 提 供	
令和2年7月28日	
所 属 (担当)	鳥取県立米子工業高等学校 (教頭・松川)
電 話	0859-22-9211

地域連携『コロナからの再生！ひまわりプロジェクト in 米子』に米工も参加します！！

今年度は、コロナウイルス感染症により生徒達はもとより市民の皆様も不安や恐怖、ストレスが絶えない状況が続いています。そんな、コロナで傷ついた心を癒し勇気と元気を届けるために地域の皆様が中心となって『ひまわりプロジェクト in 米子』を開催されています。

米工も、その趣旨に賛同し、人権推進委員を中心となり P T A の支援のもと規模を拡大して「令和2年度米工はるかのひまわり絆プロジェクト」に各クラスで取り組みます。

また、この取り組みをとおして、命の大切さや人ととの絆の大切さを皆が考え、防災に対する意識の向上にも繋げることができる期待しています。

については、下記のとおり『はるかのひまわり』の種まきを行い、活動をスタートしますのでお知らせします。

記

1 日 時

令和2年7月31日（金）午前11時15分作業開始

2 会 場

米子工業高等学校 正門付近
(〒683-0052 米子市博労町四丁目220番地)

3 参加者

各クラスの人権推進委員及び生徒有志・P T A 関係者

4 『はるかのひまわり』の由来

平成7年1月17日の明け方、5時46分、大きな地震が襲いました。木造の建物は、その揺れでひとたまりもなく崩れてしまい、2階部分が崩れ落ち、1階は完全に押しつぶされました。はるかちゃんがガレキの下から発見されたのは、地震発生から7時間後でした。震災から半年後、かつてはるかちゃんの家があった空き地、はるかちゃんの遺体を発見した場所。驚いたことに、そこに無数のひまわりの花が、力強く、太陽に向って咲いていました。お母さんはひまわりを見て、「娘がひまわりとなって帰ってきた」と涙しました。近所の人たちは、この花をこう呼びました、『はるかのひまわり』。何も無くなってしまった町の空に、次々に咲いた大輪の花はたくさんの人を励まし勇気付けました。

（はるかのひまわり絆プロジェクトのホームページから引用）

新型コロナウイルス感染症からの再生・復興に向けて！

「はるかのひまわり絆プロジェクト連携」

コロナからの再生！ひまわりプロジェクト in 米子

趣 意 書

【主 旨】

今なお全世界で猛威を振るっている新型コロナウイルスにより、私たちの社会も生活も、大変な脅威にさらされています。感染への不安のみならず、未知のウイルスへの恐怖感と、先の見えない閉塞感による大きなストレスが、私たちの心身の健康を蝕んでいます。

私たちは、一刻も早くこの現状を打ち破り、正常な社会生活を取り戻さなければなりません。そのためには、まず、みんなが気持ちにゆとりを持ち、明るく前向きに行動することが大切です。

平成7年1月17日に発生した阪神淡路大震災からの再生・復興のシンボルとして現在も取り組まれている「はるかのひまわり絆プロジェクト」（別紙参照）

市内では東山中学校区を起点として、多数の学校、公民館、民間施設等が「はるかのひまわり」の種を受け継ぎ、毎年たくさんの大輪の花を咲かせています。また現在では、コロナで傷ついた心を癒やし、勇気と元気を届ける取組みとしても位置付けられています。

私たちはこれに連携し、新型コロナウイルス感染症からの再生・復興のため、「コロナからの再生！ひまわりプロジェクト in 米子」を立ち上げ、「ひまわり」で米子市民の気持ちを明るくしていくための取組みを展開します。

この主旨にご賛同いただける団体、個人の皆さまは、ご理解、ご協力をくださいますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

令和2年6月1日



発起人

はるかのひまわり絆プロジェクト米子支部
啓成地区自治連合会・啓成公民館
啓成更生保護女性会
車尾まちづくり推進会議・車尾公民館
中央隣保館（米子市人権政策課）

【事業概要】

新型コロナウイルスからの再生・復興を願い、米子市公会堂から、えるもーる1番街、ひまわり駐車場、富士見第2公園までの一帯及び市役所周辺（メインエリア）を「ひまわり」で飾る。

また、市内で継続的に「はるかのひまわり絆プロジェクト」に取り組んでいる個人・団体に対して、今年度の趣旨に「コロナからの再生」を加えてもらうほか、新たに取り組んでいただける個人・団体を募集する。

- 1 米子市公会堂・富士見第2公園については、可能な範囲で直植えとともに、プランターで栽培したものを飾る。
- 2 メインエリアのその他の場所、公共施設等については、イベント時などに許可の取れる範囲においてプランターで栽培したものを飾るものとし、その栽培（100鉢・種まきから開花・種取りまで）は中央隣保館駐車場等で作業する。
- 3 種まき時・開花時には、三密に配慮しながらイベントとして位置付けるものとし、各報道機関に取材の依頼を行う。
- 4 ひまわり種子は、「はるかのひまわり絆プロジェクト」から提供を受けて植え付けるほか、参加を希望する個人・団体に対しても無償で提供する。（1000袋）
- 5 プランター50鉢程度については、栽培を引き受けいただける個人・団体に対して栽培を委託する。（委託条件等については、別途決定）

[栽培の協力をいただく団体]

東山中学校区内の幼・保・学校、公共施設その他の関係機関
富士見町2丁目自治会

[プランター等の購入・栽培の協力をいただく団体]

米子市公会堂（一般財団法人米子市文化財団）

[プランター等購入の寄付をいただいた団体]

ひまわり駐車場（株式会社アバロン）

JU米子高島屋

グッドブレスガーデン

（株式会社ジョイアーバン）

永井電機工業所

中海テレビ放送



はるかのひまわり絆プロジェクト

～はるかちゃんからあなたへ咲かそう希望の花を！～

平成7年1月17日大きな地震が神戸を襲いました。木造の建物は、2階部分が崩れ落ち、1階は完全に押しつぶされていました。はるかちゃんがガレキの下から発見されたのは、地震発生から7時間後でした。震災から半年後、はるかちゃんの家があった空き地。はるかちゃんの遺体を発見した場所には驚いたことに、無数のひまわりの花が、力強く、太陽に向って咲いていました。お母さんはひまわりを見て、「娘がひまわりとなって帰ってきた」と涙しました。近所の人たちは、この花をこう呼びました。

『はるかのひまわり』

はるかちゃんと同級生の娘さんを持つ藤野芳雄さんは、はるかちゃんを助け出せなかった悔しい思いから、はるかのひまわり、を全国へ普及させる活動を愚直に続けてこられた、はるかのひまわり、の生みの親です。“はるかのひまわり絆プロジェクト”も藤野芳雄さんの真摯な思いから生まれた活動です。藤野芳雄さんは2012年11月に逝去されましたが、ご冥福を祈りつつ、向日葵の種の配布活動を継続しています。



<https://haruka-project.jimdo.com/>



はるかのひまわり絆プロジェクト

【活動理念】

「はるかのひまわり」を育て採取した種を配布する過程で由来を伝え、災害の悲惨さと共に命の尊さを再考する機会とすることで、「人の尊厳」と「人との関わりの大切さ」を知る感性豊かな地域社会を醸成することを目的とします。

【プロジェクト活動を通してコロナウイルスを吹き飛ばそう！】

2020年4月8日 新型コロナウイルス感染抑制のための政府による緊急事態宣言以降、3密となるあらゆるイベントが中止を余儀なくされましたが、「はるかのひまわり絆プロジェクト」は、その使命を、コロナで傷ついた心を癒やし、勇気と元気を届ける取組みとして全国で生育が始まりました。

『コロナに負けない"ひまわり"咲かそう』

『はるかのひまわり絆プロジェクト』 米子市での活動に関する経緯

1995年	阪神淡路大震災（1月17日） 「はるかのひまわり」の名付け親である藤野芳雄氏が、翌年以降、住む町に花を咲かせ、その種を配りながら震災の教訓を伝える活動を開始
2011年	東日本大震災（3月11日） 4月1日「はるかのひまわり絆プロジェクト」として松島俊哉氏が立ち上げ再生・復興を祈り「はるかのひまわり」の意思を石巻市、南三陸町等に繋ぐ。
2012年	現米子支部代表・新宮美津代、東日本大震災のボランティア活動で、はるかのひまわりと出会う。
2013年	上記新宮美津代、東日本大震災復興支援活動で、主宰 松島俊哉氏と出会う。
2014年	米子市立啓成小学校にて米子市での始動 更生保護女性会から米子市全域の更生保護女性へ繋ぐ。
2015年	東山中学校区人権・同和教育家庭地域部会全体の取組みとして始動 【東山中学校・啓成小学校・車尾小学校・市立養護学校・みどり幼稚園・東保育園・車尾保育園・いづみ保育園・啓成公民館・車尾公民館】 (現在も継続中)
2016年 1月	米子市人権同和教育研究集会にて、分科会参加者へひまわり種1000袋配布
2019年	米子市中央隣保館始動 県立米子工業高等学校始動 県立米子工高から県立米子高等学校・県立境港総合技術高校へ繋ぐ。 米子市中学校区人権同和教育研究発表会にて、参加者へひまわり種300袋配布
2020年	東山中学校から伯耆町立岸本小学校へ繋ぐ。伯耆町立岸本小学校始動 「コロナからの再生！ひまわりプロジェクト in 米子」に参画